

論文内容要旨

論文題名：多項目唾液検査システム（ライオン社 AL-55）による 唾液因子の測定値の検討

専攻領域名：口腔保健学領域

氏名：酒井麻里

【背景】 これからの我が国の人口動態は高齢者の人口は増加を辿る一方であり、特に要介護高齢者の口腔健康管理や摂食嚥下などに関連した健康の保持が重要であることは論を待たない。一方、口腔健康管理をより科学的かつ理論的・視覚的に提示できるようにし、医療者側と患者との共通認識の持てるツールがあれば、患者への情報提供やモチベーションの強化を効率よく行うことができると考えられる。近年、ライオン社から5分間で測定できる唾液検査システム（AL-55）が開発された。本システムによって、口腔内のリスク因子を即日結果を出すことができ、患者への説明も同日に行えることが可能となっている。

【目的】 今回、従来から昭和大学歯科病院で使用していた、う蝕関連菌検査（BML社）とAL-55（ライオン社）の唾液検査を同日に採取を行い、使用方法と結果の比較検討を行う目的で本研究を実施した。

【方法】 昭和大学歯科病院の歯科ドック受診者、および定期健診受診者のなかから、書面による同意を得られた計20名を本研究の対象とした。研究期間は平成27年3月1日～平成27年9月30日であった（昭和大学歯学部医の倫理委員会2014-021号）。研究協力者に対し、検査開始1時間以上前から飲食および口腔清掃を行わないようあらかじめ要請し、検査直前にはこれらを再度確認し、お身体に関するアンケート、試料の採取、AL-55（ライオン社製）による検査、唾液の採取、BML社の「う蝕関連菌検査キット」による検査、口腔内の検査の順で実施した。

【結果および考察】 対象者20名のうち、男性が6名（30%）、女性が14名（70%）であった。年齢は12-74歳（平均46.2±34.2）であった。AL-55の検査結果では、むし歯菌数が少ないとの判定は17名、中程度は3名、pHが高い者は9名、低い者は11名であった。BML社のう蝕関連菌検査結果でDMF歯数が15歯未満の者は、男性が6名、女性が6名、15歯以上の者は、男性はおらず、女性は8名であった。う蝕菌比率は、ノーリスク7名、ローリスク11名、リスク2名であった。本結果から、AL-55は即日に用いることが可能で、これまでのBML社との関連性は齲蝕に関しては、リスクが低いものほど有効であるとの結果を得た（特異度が高い）。う蝕は様々な要因があるため、BML社のう蝕関連菌検査およびAL-55の両方のデータを合わせてみることで、より正確な情報を患者へ伝えるためのツールとして使用できることを評価することができた。